



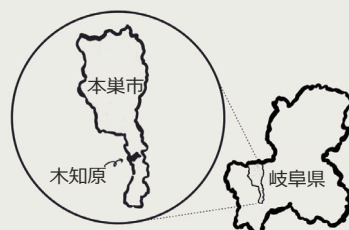
コミュニティプラットフォーム



KO CHI BO LA BO
こちぼらぼ

かつて谷汲山から善光寺までの巡礼路として育まれてきた「木知原」。少子高齢化や人口減少等により、地域社会が縮小傾向にあります。「こちぼらぼ」は、継承と往来により育まれてきた風景、産業、文化等の資源を改めて読み解き共有することで、住民や関わる人々の愛着を深め、現代をより豊かに、次代へとつなぐ持続可能な場所へと更新しています。

こちぼらぼとは？



こちぼらぼ



動画「あるまちの風景」



木知原の今昔 喫茶店「CAFÉ DE MORE」

「木知原(こちぼら)」と「みなさんと育んでいくーラボラトリ」を合わせた造語。**こちぼらぼ**

岐阜県本巣市の山間部、人口約 226 人の「木知原地区」におけるコミュニティのプラットフォームとなる活動です。その時々に必要なことを、みなさんとひとつひとつ考えながら、「木知原の未来」を創っていくーただ、それはひとつのかたちをとるものではなく、持続的な動きであり、プロジェクトであり、居場所でもなりうる存在を目指しています。

場づくり

喫茶店を地域のハブに

岐阜では集いの場のひとつである喫茶店。木知原のこれからは、木知原の玄関口にあり営業縮小していた 1982 年創業の喫茶店の更新が必要と考えました。ご縁がつながり 2024 年、こちぼらぼの活動拠点として引継ぎ改修し、サイフォンで淹れる珈琲や地元産食材を用いた彩り豊かなモーニングを提供開始。地域の人たちも再び集い、多方面から訪れる人たちとの交流も生まれ、新たな活気が育まれています。



改修後の喫茶店「CAFÉ DE MORE」



魅力づくり

地域資源の価値を創造

ケ+ハレ

現在の木知原はどのような場所なのか、知ることが次代へつながります。代々継がれた木知原の歴史や資源を木知原内外の視点からヒト、モノ、コトを通して読み解き、ホームページ、動画、「こちぼらぼはじまりの本」等で、発信。木知原に所縁のあった人々には新たな気づきを、木知原をご存知なかった方には新たに知っていただき、木知原の魅力を高めて愛着を深め、新たな価値を創造しています。



関係づくり

持続可能な地域の仕組み

ハレ

豊かな日々の暮らしが次代をつくります。そのためのきっかけとして、かつて往来する人々をもてなしたように、「こちぼらマルシェ」を開催することにしました。開催場所は、日常の一部である喫茶店。木知原の人々には日常(ケ)の延長として、外から訪れる人にはハレの場として、同じ時間を過ごします。これにより点在していた木知原内外の活動がつながり、地域と人との関係が広がり続けています。

